

**【栃木県栃木市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	栃木県栃木市
担当課名	教育総務課
電話番号	0282-21-2467

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	154491人	部活動数	161部活
公立中学校数	13校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	3823人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中 (令和6年3月策定予定)

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1 学校部活動加入率については、令和5年までの6年間で、3.5%減少。(R5 市調査)

→ 今後も減少傾向にあると考えられる。

平成30年度	令和5年度
89.9%	86.4%

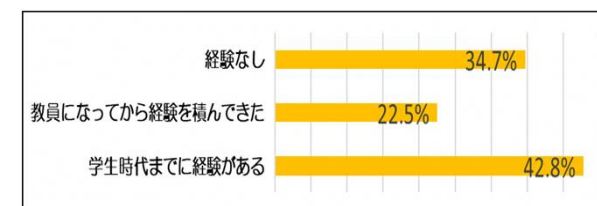
2 地域スポーツクラブ等加入生徒数については、令和5年までの6年間で、85人増加。(R5 市調査)

→ 生徒・保護者等のスポーツ・文化芸術活動への多様なニーズに対して、学校部活動のみでは対応ができない状況になっている。

平成30年度	令和5年度
520人	605人

3 部活動顧問の活動経験の有無については、「初めて担当する部であり、これまでの活動経験がない。」という教員が部活動顧問をしている割合は、全体の1/3を占めている。(R4 市調査)

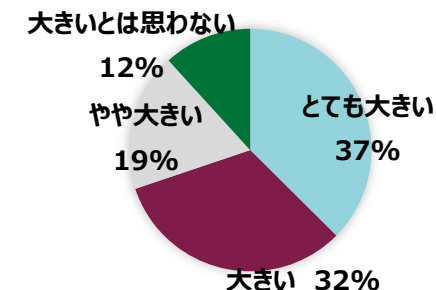
→ これらの教員にとっては、部活動指導がとて大きな負担となっている。



4 部活動顧問の負担感については、「どのくらいだと思うか。」の問いに、「とても大きい」「大きい」と答えた顧問の割合は、約7割(69.8%)にのぼる。(R4 市調査)

※「負担に感じること」の要因(回答の多い順) →

- ① 時間的拘束が長い
- ② 慣れない部活動の指導
- ③ 保護者の期待



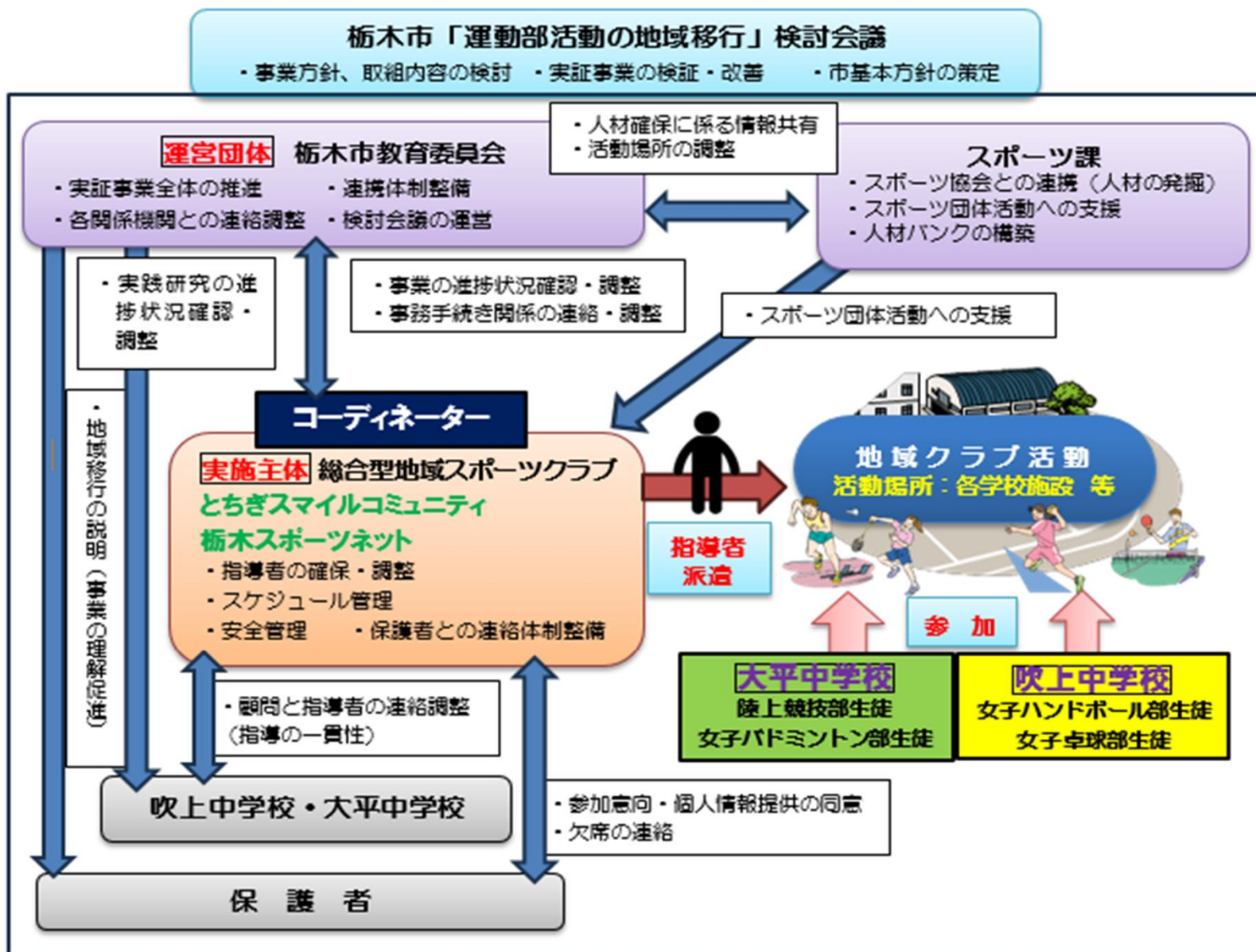
5 総合型地域スポーツクラブについては、市内に4つ存在するが、受け皿として可能な団体は現在2つのみ。

→ 地域格差があるとともに、2団体に所属している指導者が多種目にわたり十分に在るわけではなく、指導可能種目に偏りがある。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務課）

- ・実証事業全体の推進
- ・連携体制整備
- ・各関係機関の連絡・調整
- ・検討会議の運営

● 市長部局（スポーツ課）

- ・スポーツ協会との連携（人材の発掘）
- ・スポーツ団体活動への支援
- ・人材バンクの構築

2. 実証内容と成果

年間の事業スケジュール

時期	事業スケジュール
4月	・実証事業の準備 ・保護者説明会（学校主導）
5月	・モデル校及びモデル団体との連絡調整
6月	・第1回検討会議の開催（実証事業の内容検討・確認、市基本方針：骨子案の内容検討） ・モデル校及びモデル団体との連絡調整
7月	・モデル校及びモデル団体との連絡調整 ・広報チラシ①の発行（本市の目指す方向性や事業内容） ・顧問・指導者合同研修会
8月	・モデル校保護者対象事前説明会 ・事前準備：顧問と地域指導者の指導方針・指導方法等のすり合わせ ・モデル校及びモデル団体との連絡調整
9月	○モデル事業開始：2中学校・4部活における地域クラブ活動
10月	・第2回検討会議の開催（事業の中間検証・改善、次年度の事業の方向性について 等）
11月	・校長会中学校部会への進捗状況報告及び次年度意向調査
12月	・第3回検討会議の開催（事業の検証・改善、市基本方針案の内容検討 等） ・広報チラシ②の発行（モデル事業の経過報告について 等：市内全教職員・関係保護者対象）
1月	・モデル校・モデル団体・保護者・生徒へのアンケート調査実施 ・第4回検討会議の開催（事業成果報告、来年度に向けた検討課題、市基本方針案の内容確認）
2月	・事業完了報告書・成果報告書等の作成・提出
3月	・市基本方針の策定 ・広報チラシ③の発行（市基本方針の概要、次年度の取組 等）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

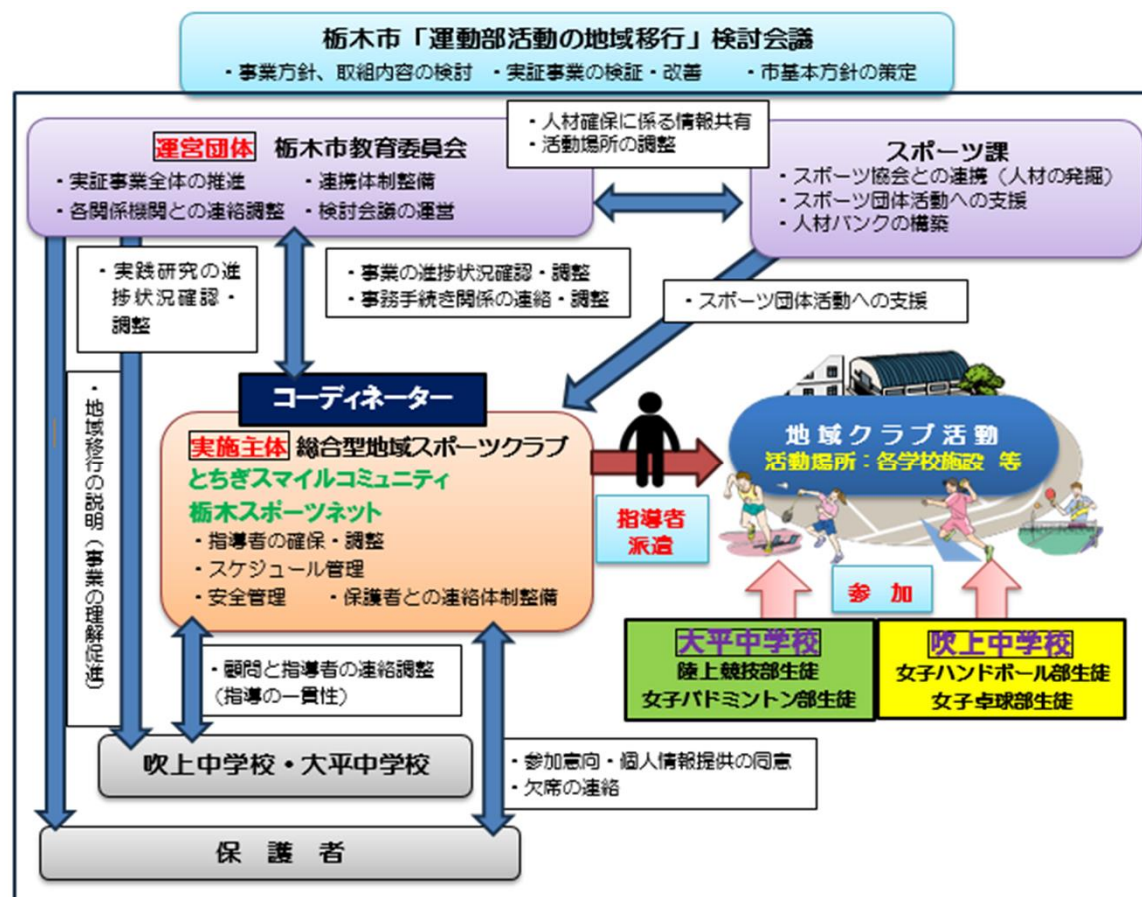
拠点校数	2校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	・吹上中学校：女子ハンドボール,女子卓球 = 2部活 ・大平中学校：陸上競技,女子バドミントン = 2部活
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	栃木市立吹上中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	2部活
地域クラブ活動で実施した種目	女子ハンドボール,女子卓球
運営主体名	栃木市
運営類型	市区町村運営型（競技団体連携型）
1か月あたりの平均的な活動回数	女子ハンドボール：月2～3回程度 女子卓球：月4回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ所属の指導者
活動場所	学校施設
主な移動手段	自転車,または徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	女子ハンドボール：会費なし 女子卓球：会費なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり： 70歳未満 1,850円/年 70歳以上 1,200円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

クラブコーディネーターによる関係団体・機関との連絡調整の体制整備に関する取組

- ・本市が運営事務局となり、運営体制が整備されている2つの総合型地域スポーツクラブと連携することで、質の高い指導者を獲得するとともに、学校と総合型地域S Cが連絡調整を行うことで、地域クラブ活動に適切な指導者を派遣した。
- ・実施主体となる2つの総合型地域S Cに、クラブコーディネーターを配置し、運営事務局と実施主体、学校と実施主体、部活動顧問と指導者との連絡調整や生徒・保護者との関わり（連絡等）において対応する業務を行った。

取組の成果

- ・地域との関わりが強く、多様なニーズに対応できる総合型地域S Cを受け皿としたことは、実証事業の円滑な推進の大きな原動力になった。複数種目に、質の高い指導者を派遣できたことは非常に良かった。
- ・総合型地域S C所属の職員がコーディネーターを担うことで、特に、部活動顧問と指導者との連絡調整が円滑に行われた。また、メールやHPを活用した保護者との連絡体制の整備が確立された。
- ・2つの総合型地域S Cが、関係機関・団体や各種競技団体等とつながりをもったことで、人材を確保する体制整備とともに、クラブの拡充につながった。

特に工夫した事項

- ・総合型地域S C所属の職員がコーディネーターを担うことで、運営事務局と実施主体、学校と実施主体、部活動顧問と指導者との連絡調整や生徒・保護者との連絡体制の整備が円滑に行われた。

今後の課題と対応方針

- ・現存している2つの総合型地域S Cをさらに拡充し、多種目の指導に対応できる組織の充実を図ることが重要である。そのためには、関係機関団体・各種競技団体との密な連携を図り、指導者の紹介・推薦の依頼をしていく。
- ・地域と連携し、本事業への理解を地域へ促すとともに、公募により地域人材の発掘に努める。
- ・総合型地域S Cを中心に、スポーツ協会や各種競技団体等とのネットワークを構築し、情報の共有や指導者の確保などを推進していく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

平日と休日の一貫した指導の取組

- ・地域クラブ活動開始前の1か月程度を移行期間とし、部活動顧問と地域指導者との打合せの機会を数回設け、指導方針や指導方法、生徒理解に関する内容を共有した。また、活動開始後も、定期的に指導方針の確認や活動状況等を共有する時間を確保した。
- ・平日と休日の練習内容を共有する際に、民間のシステム（LINE WORKS）を活用した。
- ・研修会において、緊急時対応マニュアルを作成・活用した。

取組の成果

- ・活動開始前に、指導者同士の指導方針等のすり合わせや指導者と生徒がふれあう時間を確保したことで、円滑に活動を開始することができ、生徒の安心感にもつながった。また、定期的なすり合わせの機会を確保することで、年度を通して一貫性のある指導が実践できたと感じる。（アンケート結果参照。顧問と指導者の連携について、「十分図られている・まあ図られている」の回答者が、9名中7名：78%）
- ・民間のシステム（LINE WORKS）を活用したことで、効率的に練習内容等の共有が図られた。
- ・研修会において、緊急時対応マニュアルを作成し、万一の救急対応について、共通理解が図られた。

Q15 指導者との連携は十分か

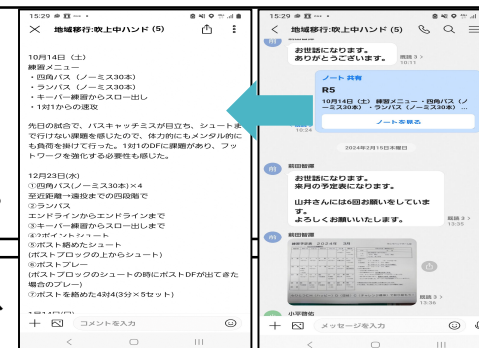
回答内容	人数
まあ図られている	3
十分に図られている	2
全く図られていない	1

Q11 顧問との連携は十分に図られているか

回答内容	人数
まあ図られている	2
あまり図られていない	1

特に工夫した事項

- ・指導者同士での指導方針等のすり合わせを定期的に行うことで、指導者同士の安心感にもつながった。
- ・指導内容の共有のために紙ベースでの指導日誌のやり取りを行っていたが、効率化を図るため、民間のシステム（LINE WORKS）の「ノート機能」（右画像参照）を活用し、スマートフォンを通して、速やかにやり取りができる方策を実践した。また、練習日程表や緊急連絡等のやり取りも円滑に行うことができた。



今後の課題と対応方針

- ・アプリ等のICTの活用については、操作に抵抗を感じる指導者もいるので、研修会を設けることや紙ベースで効率化を図る方策も検討する。
- ・安全面を担保するため、専門家を講師としたAEDの適切な使用等のより実践的な研修を実施したい。また、技術面や生徒指導面に関する研修会の開催を検討したい。技術面では、優れた専門性や資質能力を有する指導者を中心に、実地研修等後継者育成も視野に入れた研修会、生徒指導面では、体罰防止やいじめ対応、メンタルヘルスや適切なコミュニケーションに関する内容等が考えられる。
- ・教員の兼職兼業について、規程の整理を行うとともに教員への理解促進を図り、運用を進めていく。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



○構成員…校長会代表（4名）、PTA代表（中学校PTA会長等2名）
 スポーツ団体（実施主体、スポーツ協会副会長等5名）、行政代表（2名） 計13名

○検討内容
 ・実証事業の実施方針及び具体的取組内容の決定
 ・実証事業の実践の共有と検証・改善
 ・栃木市「部活動の地域移行」基本方針の策定（内容検討 等）

【資料1】

令和5年度モデル事業の取組内容（中間報告①）

1 リフレットによる啓発（第1号：7月） → 【資料2】参照
 ・市内小中学校全教職員、小5～中2年全保護者配付
 ・国の方針及び本市の方針、モデル事業の概要等について周知
 ・今年度…3回発行予定

2 三春合せ（学校・スポーツクラブ・市教委）
 取組中：8月18日
 【確認事項】
 ・事業実施内容確認、鍵の扱い方確認 等
 【課題】
 ・保護者との連絡手段の整理
 ・大会、練習試合の引率について → 【資料3】参照
 ・指導日誌内容の効率的な伝達手段 → ラインワークスの構築

大平中：8月4日
 【確認事項】
 ・事業実施内容確認
 ・顧問と指導者の顔合わせ、連絡手段確認
 ・クラブ活動内容調整（練習時間、練習場所、使用用具 等）
 ・移行期間開始の調整
 【課題】
 ・大会、練習試合の引率について

3 保護者説明会（市教委事務局、クラブ関係者）
 ○吹上公民館：8月18日 保護者10名参加
 ○大平公民館：8月21日 保護者27名参加
 ・スポーツクラブ及び指導者紹介
 ・事業内容説明
 ・クラブ活動内容説明
 ・個人情報提供依頼
 ・保護者側の欠席等の連絡やクラブ側からの連絡の手段について
 【質疑応答】練習試合や大会の引率について/市としての今後の方針について 等

4 移行期間（7～8月）の対応
 ※吹上中：7月22日～、大平中：8月8日～
 ・生徒との顔合わせ
 ・顧問の指導方針・指導方法等の確認
 ・開始日、練習時間、練習場所、使用用具、鍵・施設等の確認
 ・鍵のやり取り（取組対応）
 ・練習当日の流れ（鍵・準備～片付け・施設等）の確認

中学校名	吹上中学校	大平中学校		
部活動名	女子卓球	女子ハンドボール	陸上競技	女子バドミントン
スポーツクラブ名	とちぎスマイルコミュニティ		栃木スポーツネット	
地域指導者	中村 孝典	山井 裕利恵	小倉戸 聖 須藤 佳次	大沢 忠夫
活動日	土曜日	土曜日	土曜日	土曜日
活動時間	8:30～10:30	8:30～10:30	9:00～11:00	13:00～16:00
活動場所	吹上中学校 技術室	吹上中体育館	大平運動公園 大平中学校庭	大平中体育館
生徒数	21名	14名 (内 大平中：2名)	27名	19名

（1）活動日当日の流れ → 【資料4】7参照

（2）顧問と指導者の連携のための「活動日誌」について
 ・吹上中…記載後、学校ポストへ → ラインワークスへ移行中
 ・大平中…記載後、事務局へ → クラブCoが最初の朝に事務局から学校へ
 → 週末に、顧問から部長へ → クラブ活動開始時に、部長から指導者へ

（3）保護者との連絡体制の整備
 ・クラブ活動における連絡は、クラブまたは指導者の対応（学校は関わらない）
 ・HP、メール、携帯のSMS 等の活用
 ・一斉メール配信の活用
 ・緊急時は、指導者または事務局から保護者個人の携帯へ連絡

【課題】

- 顧問と指導者の連携（指導の一貫性）
 ・クラブ活動のスタートにあたり、部活動顧問及び地域指導者の指導方針や指導方法等の共通理解を図ること。
- 学校体育と社会体育の違いの理解
 ・学校部活動と地域スポーツ活動の考え方の違いの理解を図ること。
- 保護者・生徒の理解
 ・早い段階で事前説明を行い、本事業への十分な理解の上での生徒の参加を図ること。
- 学校における業務の負担
 ・顧問や管理職の事務処理等の負担増を避けること。

「栃木市版 部活動の地域移行」基本方針【案】

～ 中学校部活動の地域移行全面实施を目指した～
 ‘休日における部活動の段階的な地域移行’～

対象期間 令和6(2024)年度～令和10(2028)年度

目次

- はじめに 1
- 1 国及び県の方針 2
- 2 国及び県の方針を踏まえた地域クラブ活動への移行の全体像 4
- 3 市の中学校部活動を取り巻く現状や課題 5
- 4 市の基本的な考え方 7
- 5 市・学校・運営団体の役割と移行の流れ 9
- 6 学校部活動から地域クラブ活動への基本的な実施内容 10
- 7 具体的課題と今後の取組 12
- 8 推進体制について 16
- 終わりに 17
- 関連資料 18

令和6(2024)年3月
 栃木市教育委員会

事業実践の取組内容 報告資料

栃木市「部活動の地域移行」基本方針

【栃木市運動部活動の地域移行検討会議】

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

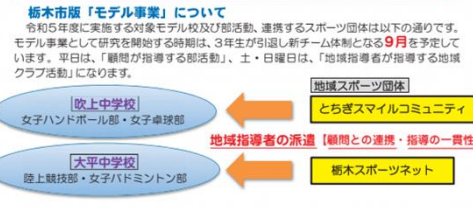
部活動の地域移行だより 第1号 令和5年7月
発行：栃木市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係
電話：0282-21-2467

～ 学校部活動から地域クラブ活動へ～

休日の中学校部活動の地域移行に向けた取組を進めています！

なぜ、部活動の地域移行をするの？
部活動は、長年にわたり生徒の体力や技術の向上にもとより、豊かな人間性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。
しかし、少子化に伴う部員数・部活動数の減りにより、学校単独でチームが編成できない、やりにくい部活動が数多く発生しています。
また、休日も含めた指導など、部活動は教員の専任の活動によって支えられており、教員には大きな業務負担となっている実態もあり、もはや学校だけで部活動を継続していくことは困難になっています。
本市では、今後も、生徒が継続してスポーツ活動に親しむ機会を確保し、併せて、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上させるため、学校と地域が協働した部活動の地域への移行を進めています。
【参考】「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」（令和2年9月 スポーツ庁）
「学校施設及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的ガイドライン」（令和4年12月 スポーツ庁・文化庁）

「部活動の地域移行」とは？
これまで学校教育で行ってきた部活動を学校から切り離し、地域スポーツクラブ等の団体が運営主体となり、地域で行うスポーツ活動へと移行する改革です。
国は、休日における部活動の段階的な地域移行を進めていくことを基本としており、令和5年度から令和7年度までの3年間を「改革推進期間」と位置付けています。
本市においては、国の改革推進期間にこだわることなく、地域の実情に応じて、まずは、休日における運動部活動から実施可能な部活動について段階的な地域移行を進めています。
その第一歩として、令和5年度は「2中学校でのモデル事業」、令和6年度以降は「市内中学校への拡充」を段階的に進めています。



	学校部活動【平日】	地域クラブ活動【休日】
位置付け	学校教育の一環	社会教育
管理運営	学校	地域のスポーツ団体 等
指導者	教員、部活動指導員	地域指導者

モデル事業での成果と課題を「検討会議（※）」において検証し、令和6年度以降の市内中学校における事業の拡充に生かしていきます。
なお、モデル事業による活動のため、地域指導者への謝金や生徒が加入する保護者保険料等の費用に関しては、現在のところ保護者の負担はありません。

部活動の地域移行 Q&A

- Q1 令和5年度から、学校の部活動がなくなってしまうの？**
A1 令和5年度内になくなってしまうことはありません。令和5年度から、休日の部活動を徐々に地域へ移行していきます。平日は、顧問の指導による学校部活動ですが、部活動指導員の配置や合同部活動の導入などの地域連携を促進していきます。
- Q2 地域移行は休日だけなの？**
A2 将来的には、平日を含めた地域移行を目指しますが、まずは、休日の地域移行から推進し、地域の実情に応じて、平日の地域移行も取り組んでいきます。
- Q3 文化部は地域移行しないの？**
A3 文化部活動についても、地域移行に取り組んでいきますが、まずは、運動部活動の地域移行を先行実施し、モデル事業等の実践研究で得られた成果と課題を生かして、休日活動している吹奏楽部等の文化部活動の地域移行を進めていきます。
- Q4 地域の指導者は十分にいるの？**
A4 市内13中学校には、現在約140の運動部活動があります。市内全ての運動部活動において、休日の地域移行を進めていくための指導者を確保することは大きな課題となります。今後、関係機関や学校、地域スポーツ団体等と連携し、専門性を有する人材の確保に努めていきます。
- Q5 現在は保護者の費用負担はないが、これからはどうなるの？**
A5 将来的には、スポーツクラブの会費や傷害保険料などの費用は、受益者負担となることをご想定されます。現在、国では、財政支援を検討しているところです。

本市では、部活動の地域移行を“**着実に**”進めます。保護者や地域の皆様のご理解・ご協力をお願いします！

部活動の地域移行だより 第2号 令和5年12月
発行：栃木市教育委員会事務局 教育総務課教育政策係
電話：0282-21-2467

～ 学校部活動から地域クラブ活動へ～

栃木市では、休日における「部活動」を「地域クラブ活動」へ段階的に移行する取組を進めています。今回は、9月から活動がはじまったモデル事業の様子を紹介いたします！

吹上中学校・大平中学校におけるモデル事業の紹介！

- ◎保護者の皆さまにご理解とご協力をいただき、学校と地域スポーツクラブが連携して実践研究を進めています。**
- 対象部活動** 吹上中学校：女子ハンドボール部・女子卓球部
大平中学校：陸上競技部・女子バドミントン部
 - 活動期間** 令和5年9月～令和6年3月 ◎次年度も継続して実施予定です！
 - 活動日・時間** 土・日・祝日の休日（土・日は、原則とちが1日）、概ね3時間程度
◎平日は、これまでとおり顧問の指導による学校部活動です！
 - 活動場所** 学校施設及び近隣の社会体育施設
 - 指導者について**
 - ・地域スポーツクラブに所属する地域指導者が指導をしています。
 - ・学校単位の活動になるため、学校の部単位に専属の地域指導者を配属しています。
 - ・校外での練習試合や中体連主催以外の大会参加（引率）を可能としています。その際は、地域クラブ活動として参加します。
 - 一貫した指導について**
 - ・8月に移行期間を設け、顧問と地域指導者が打合せを行ったり、一緒に指導を行ったりすることで、指導方針や練習方法の調整を図りました。平日と休日の指導が一貫したものになるよう、また、生徒が安心して活動に参加できるよう努めてまいりました。
 - ・地域クラブ活動日誌等を活用して、顧問と地域指導者が活動内容を共有しています。
 - 費用について**
 - ・地域指導者への謝金、交通費、スポーツ安全保険加入料、また、参加生徒のスポーツ安全保険加入料については、市の予算で対応し、国・県の補助金を活用しています。
 - ・*学校の教育活動外になりますので、部活動での事故等の補償対象外になります。
 - ・本モデル事業については、国の指針に基づいて実施するため、原則、保護者の皆さまからの会費等は徴収しないこととしています。



- ◎対象中学校の校長先生にうかがった意見です！**
- ・一番の課題と考えていた顧問と地域指導者の連携については、8月の移行期間で指導方針や指導方法等のすり合わせがしっかり行えたので、9月から地域移行がスムーズに進められている。
 - ・顧問と地域指導者は、メールや携帯電話等で連携を図り、生徒の指導に生かしている。
 - ・顧問が地域指導者から専門的なアドバイスをもらい、指導に生かしている。
 - ・地域指導者の専門的な指導で、生徒の技術力が向上した。
 - ・指導者と生徒の関係が良好である。
 - ・一番の課題と考えていた休日の大会引率については、方針の整理ができたのでよかったです。
 - ・顧問は異動が想定されるが、休日だけでも変わらぬ地域指導者に指導してもらえることは、生徒にとってメリットになると考える。
 - ・顧問の負担軽減につながっている。

◎活動に参加している生徒の感想です！（顧問の先生と市教育委員会担当の聞き取り）

教えてくださることが的確でありがたい。 慣れてきて、活動が楽しくなってきた。 技能が向上してうれしい。 新しい練習ができてうれしい。 新しいことが学べる。

◎栃木市運動部活動の地域移行検討会議の設置について

本市における部活動の地域移行に関する基本的な方針を策定するに当たり、広く意見をうかがうため、「**栃木市運動部活動の地域移行検討会議**」を設置しています。
本会議は、各種スポーツ団体、PTA、学校、行政の代表で構成され、部活動の地域移行を推進する上での課題整理やモデル事業の運営方法、基本方針の考え方等を議論しています。
現在、本会議では、「**栃木市版 部活動の地域移行 基本方針**」を策定中です。次年度以降の本市における部活動の段階的な地域移行の基本的な方向性を示すもので、今年度末の策定を予定しています。

◎本市における運動部活動の地域移行の取組について、栃木市のホームページにも掲載しています。詳しくは、こちらをご覧ください！

- 部活動の地域移行だより
- ・2回発行（7・12月）※第3号は、3月発行予定
 - ・学校を介して小学4年～中学2年保護者へ配付
 - ・図書館や公民館等公共施設での設置、市HP公開
 - ・内容：第1号…本市における部活動の地域移行推進の説明 等
第2号…実証事業の取組紹介 等

【保護者・地域向け広報啓発資料】

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

県教育委員会「休日の地域クラブ活動に関するアンケート」調査 令和6年1月実施 栃木市 集計結果（一部）		【資料2】 保護者 （栃木市地域クラブ活動参加生徒の保護者）	
生徒 栃木市地域クラブ活動参加の生徒） ※地域クラブ活動参加全生徒数…80名			
Q11 困ったこと・悩み ※回答人数：51名（複数回答可）	Q12 参加してどう感じたか ※回答人数：51名（複数回答可）	Q9 部活動の将来どうあるべきか ※回答人数：25名	Q11 学校と地域の活動のちがい ※回答人数：25名
悩みはない 18	体力・技術が向上している 20	平日は学校、休日は地域で行うべき 12	違いはない 3
指導が厳しい 14	指導がわかりやすい 15	学校教育の一環として学校で行うべき 12	少し違う 14
学業との両立 12	特になし 11	地域で行う 1	ほぼ違う 2
活動の時間が長い 9	指導が厳しい 9		全く違う 6
指導者間の意見の相違 8	部活動がもっと好きになった 7		
他の生徒との関係 7	顧問教員と連携して欲しい 6		
実技指導をして欲しい 7	指導時間が長い 6		
休日がない 5	もっと専門的な技術指導を受けたい 5		
指導者が意見を聞いてくれない 3	指導がわかりにくい 5		
活動の時間が短い 2	他校の生徒と交流できるので楽しい 5		
家族の期待 2	情操が豊かになった 1		
安全管理 2			
家族の理解が得られない 1			
		Q12 参加して良かった点 ※回答人数：25名（複数回答）	Q13 実践して感じた課題 ※回答人数：25名（複数回答）
		お子さんが専門的な知識・技能を習得できた 11	顧問と指導者の連携 18
		お子さんの体力(技術)向上に繋がった 4	指導者間の指導方針の相違 9
		お子さんの意欲が向上した 3	安全管理 8
		顧問が専門的な指導法などを学ぶ機会となった 2	個人情報の管理の徹底 6
		他校の生徒などとお子さんの交流の幅が広がった 1	指導の際の教育的配慮 5
		お子さんの平日の活動にも好影響 1	生徒同士の間関係 4
			施設・設備の管理 4
			補償の差異 2
			指導時間・日数が短くなった 2
		Q14 指導者の指導をどう感じているか ※回答人数：25名（複数回答）	Q15 次年度も実施してほしい ※回答人数：25名
		適切な指導が行われている 10	非常にそう思う 5
		顧問教員との指導方針の相違がある 7	まあそう思う 13
		顧問教員との連携不足 6	あまりそう思わない 4
		技術が向上しない 4	全くそう思わない 3
		もっと専門的な指導をして欲しい 4	
		指導方針が示されない 3	
		指導時間・日数が短い 2	
Q10 学校と地域での活動のちがい 回答数：51名	Q13 次年度も参加したいか 回答数：50名		
			
Q19 地域移行をどう思うか（自由記述）			
肯定的な意見	否定的な意見		
よい・賛成 18	反対 4		
体力・技術が向上した 3	クラブ（他の学校）の人がいるからやりづらい 3		
違う先生から教えてもらうことはよい 2	知らない人だから嫌 2		
たのしい 2	別の指導者がいい 2		
平日に地域移行したい 1	部活がいい 2		
学校は異なる練習で楽しい 1	しっかり管理してほしい 1		
自分がやりたいことができる 1	指導者の高潔さや熱心が少しも感じられない 1		
指導がとても分かりやすい 1	指導が偏っている 1		
熱心な指導 1	顧問の先生のほうが優しく、分かりやすい 1		
改善点で発見、向上心が高まる 1	別の時間帯がいい 1		
顧問の先生の負担が減るのでよい 1	自分たちがやりたいことができない 1		
	楽しくない 1		
	指導内容が分からない 1		
	当日の電話連絡が大変 1		
	さぼっている人が多い 1		
	変化が大きい 1		

【アンケート調査結果（1月実施）：生徒・保護者】

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

教員（栃木市モデル事業対象部活動の顧問）

Q10 実践してよかったこと		Q11 実践して感じた課題	
※回答人数：6名（複数回答）	人	※回答人数：6名（複数回答）	人
自身が休めるようになった	6	施設・設備の管理	4
生徒が専門的な知識・技能を習得できた	4	安全管理	4
生徒の体力(技術)向上に繋がった	3	指導者間の指導方針の相違	3
顧問が専門的な指導法などを学ぶ機会となった	1	指導の際の教育的配慮	2
生徒の意欲が向上した	1	顧問と地域クラブ活動指導者の連携	1
生徒の平日の活動にも好影響があった	1	個人情報の管理の徹底	1
Q12 生徒の生涯スポーツ活動環境の整備につながると感じるか		Q13 自身の負担軽減	
※回答人数：6名	人	※回答人数：6名	人
非常に感じる	3	非常に感じる	4
少しは感じる	2	少しは感じる	2
あまり感じない	1		
Q14 教材研究や生徒指導に充てる時間が増えたか		Q15 指導者との連携は十分か	
※回答人数：6名	人	※回答人数：6名	人
少しは感じる	2	まあ図られている	3
全く感じない	2	十分に図られている	2
非常に感じる	1	全く図られていない	1
どちらとも言えない	1		
Q16 指導者との連絡方法		Q21 指導者が重視すべきこと	
※回答人数：6名（複数回答）	人	※回答人数：6名（複数回答）	人
電話	4	生徒一人ひとりの技能レベルにあった指導	5
ライン	3	多くの生徒が楽しめる指導の工夫	4
直接対面	2	大会・コンクール等での好成績	3
メール(携帯・パソコン)	1	生徒一人ひとりの心身の発達段階に応じた指導	3
コーディネーターを通して	1	練習内容の精選・工夫	3
活動日誌	1	生徒の自主性・主体性の尊重と育成	3
		チームワーク・協調性・共感	2
Q17 指導者との連携について		※回答人数：6名（複数回答）	
生徒の健康状態やコンディションについて情報交換している		2	
地域クラブ活動指導者と相談しながら年間・月間の計画を立てている		2	
顧問と日頃から積極的に意思の疎通を図り、個に応じた指導が実現できている		2	
生徒の健康状態やコンディションについて情報交換している		1	
校内の他の部とも活動の共有を図っている		1	
Q22 地域移行で心配なこと		※回答人数：6名（複数回答）	
		人	
		5	
		3	
		3	
		2	
		2	
		1	
		1	
		1	
		1	

地域指導者（栃木市モデル事業の地域指導者）

Q7 部活動は将来どうあるべきか		Q8 実践してよかったと感じること	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名（複数回答）	人
平日は学校、休日は地域で行うべき	2	生徒の技術向上が見られた	3
地域で行うべき	1	生徒の意欲向上が見られた	1
Q9 課題は何か		Q10 指導で留意している点	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名	人
顧問と地域クラブ活動指導者の連携	1	生徒一人ひとりの技能レベルにあった指導	2
指導の際の教育的配慮	1	多くの生徒が楽しめる指導の工夫	1
練習日が増えるとよい	1		
Q11 顧問との連携は十分に図られているか		Q13 顧問との連携について	
※回答人数：3名	人	※回答人数：3名（複数回答）	人
まあ図られている	2	活動状況や生徒の様子を指導ノートで共有している	3
あまり図られていない	1	顧問と相談しながら年間・月間の計画を立てている	1
		お互いの指導方法を尊重している	1

【アンケート調査結果（1月実施）：対象部活動顧問・地域指導者】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【学校・地域スポーツクラブ関係者合同研修会】

○確認事項等

- ・実証事業内容確認
- ・指導方針確認
- ・一貫した指導について（指導日誌の円滑な共有方法、連絡手段）
- ・学校施設使用時について（開錠・施錠方法、鍵の管理）

○検討内容・課題等

- ・緊急時の対応（対応マニュアルの作成）
- ・保護者との連絡手段の整理
- ・大会・練習試合の引率について



【保護者説明会】

○実証事業の内容説明

- スポーツクラブの指導方針について
- 質疑応答
- ・スポーツクラブとの連絡手段について
- ・大会・練習試合の引率について
- ・事業における今後の方向性について

2. 実証内容と成果

参考資料 (活動写真)



【地域クラブ活動の様子①・女子卓球】



【地域クラブ活動の様子②・女子ハンドボール】



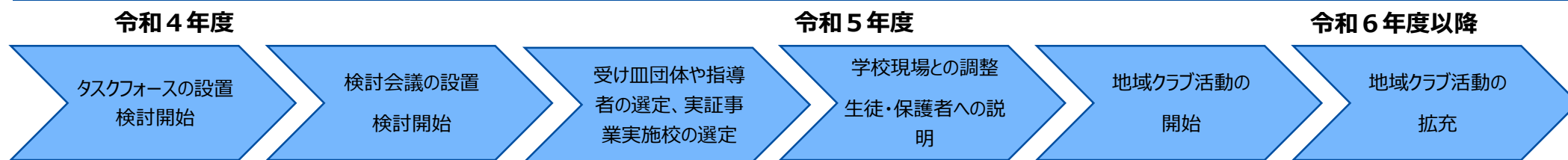
【【地域クラブ活動の様子③・陸上競技】



【【地域クラブ活動の様子④・女子バドミントン】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- ・地域移行に対する市としての考え方を整理するために、市・市教育委員会事務局関係課の担当者間での協議をタスクフォースにおいて進めた。
- ・校長及び部活動主任対象の実態把握を行うため、アンケート調査を実施したことで、地域移行における課題が明らかになった。
- ・課題：受け皿となるスポーツ団体の拡充や人材確保、学校とスポーツ団体の連携による指導の一貫性、生徒・保護者の理解、市としての体制整備
- ・検討会議の構成員の検討を行った。

- ・本会議の構成員：校長会代表、スポーツ団体代表、保護者代表、市職員代表
- ・実証事業実施に向けた検討とともに、本市としての部活動の地域移行の推進に関して、方針や計画、具体的な取組内容等を検討した。

- ・受け皿団体や指導者の選定については、市内4つの総合型地域スポーツクラブに事前訪問し、地域移行の概要説明で理解促進を図り、地域移行の受入と指導者確保の可否を相談した。可能な2クラブに受け皿と指導者確保をお願いした。
- ・実証事業実施校の選定については、受け皿団体の地域にある中学校に理解を求め、移行可能な部活動と指導者のマッチングを行った。

- ・新1年生が部活動を選択する時期を迎える前に、学校側が生徒に対して地域移行の説明を行った。また、保護者会においても、地域移行の理解を求める説明を行った。
- ・市及び受入団体による保護者説明会も開催し、地域移行の趣旨や活動内容等を説明した。団体・指導者との連絡手段と練習試合・大会等の対応について質問を受けたので、丁寧に返答した。
- ・事前に、顧問と指導者との打合せを数回実施し、指導方針や指導内容等のすり合わせを行うとともに、部活動に指導者が加わって指導したことで、一貫した指導体制の構築と生徒の安心感につながった。

- ・新チームになる9月から事業を開始した。
- ・2校4部活の休日の地域クラブ活動に、実施団体所属の地域指導者を派遣した。
- ・専門性の高い指導者により、生徒の技術向上につながった。
- ・指導方針の確認や活動状況の共有等定期的なすり合わせを適切に行った活動は、平日と休日の一貫した指導体制とともに、生徒・保護者との信頼関係の構築につながったが、活動によって格差が生じた。
- ・活動によっては、指導者の生徒理解にも課題が生じたので、次年度は、研修会を設けたい。
- ・市としての方向性と推進の具体的な取組等を示す基本方針を策定した。(R6.3月)

令和6年度

- ・7校11部活に拡充する。

令和7年度以降

- ・13校26部活の地域移行に拡充するとともに、参加対象生徒を学校の生徒から地域の生徒に広げ、生徒の多様なニーズに対応していく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

→ 地域移行を開始する時期（9月）を示す。
※ 新チームの活動開始時期

(基本目標)

○生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりに取り組む。

(活動目標)

短期目標
○令和7(2025)年度までに、市の全ての公立中学校の休日の運動部活動を2つ以上、地域クラブ活動を目指す。

長期目標
○令和10(2028)年度までに、市の全ての公立中学校の休日の運動・文化部活動を全て、地域クラブ活動にすることを旨とする。

